

歌をうたう

お母さんになって、子どもと過ごすようになって、毎日のように歌をうたうようになりました。家の中ではもちろん、自転車をこぎながら外でも(時々、長女には「やめてよー」と言われますが…)。季節やその日の天気に合わせてうたっていると、ほんとに楽しいし、気持ちが救われることがあります。



冬の風の強い日、自転車をこぎながら「北風小僧の寒太郎」、雨の日には「あめあめふれふれかあさんがー」…。うたいながら、なんとか保育園へたどり着く。そんな朝もありました。

なかなか寝ない子どもを抱っこして寝かしつけながら、エンドレスのテープのように、「ねんねこよー」と何回もうたう。そんな夜もありました。

一緒に「さんぽ」や「かえるのうた」を大声でうたうお風呂タイム…。



歌って、ありがたいなあと思います。そして、大声でうたっても怪しまれないのは、子どもを連れてお母さんだからこその特権かもしれませんね。

(春日もえ/川崎市)

匂いがわからない?

私の実家(福岡県)は、だいたい宅地開発が進んだとはいえ、まだ田んぼに囲まれている。昨夏は三世代で雲仙・野岳に登山した(写真)。



そのときショックだったのが、子どもたちが「田んぼの匂い」や「樹木の匂い」「ひなたの岩と日陰の岩の匂いの違い」などがわからないということだった。私にとっては当たり前の「匂い」が、子どもたちにはわからない…。

今、住んでいる大阪は、西側に瀬戸内海があるので、雨が降る前は海の匂いがする。ベランダに出たときなどに「あ、海くさいから明日は雨だ」と、ほぼ100%当たる。が、この「海くさい」も子どもたちはわからないという。

先日お会いした恩師は、大阪生まれの大阪育ちだが、「へえー、それは初めて知りました!」と驚かれた。嗅覚は、育った環境によって発達の方が違うのか?

恩師は現在、大学で幼稚園教諭の卵を教えていて、学生さんたちによく話すそうだ。「たとえば遠足で、ほら、このお花キレイだね、いい香りだねと、自分が心の底から思っ言わないと、園児たちには伝わらない。草の上に寝転ぶにしても、まず自分が気持ちいい!って心の底から思っ寝転がらないと、子どもたちは真似もしないし、感じないんだよ。だから私が「ほら、〇〇の匂い」と語りかけるのはとてもよいことだと、ほめられた。

今、子どもたちの通学路にはモクレンの花が満開で、甘い香りを漂わせている。一緒に歩くたび「ほら、モクレンの香り、春がそこまできているなあ」と私。



「あ、本当だあ!」と夢中で匂いをかいでくれたのは幼稚園の頃までの話。今は同じく通学途中にできた、たこ焼き屋さんの匂いのほうが気になるらしい…。

(川口由起/大阪市)

小学生のお母さん

本日は朝から快晴。桜は満開!今日は娘の入学式。主人と出席してきました。

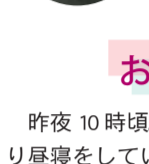


娘は緊張しながら入場し、私たちを探して保護者席をキョロキョロ…。

私たちの顔を見た途端、笑顔に。

教室では名前を呼ばれ、大きな声で返事ができて満足そう。話をする担任の先生を、ニコニコと目を大きく開いて見る姿…。今きくと、娘はスポンジなんだろうなあ。何でもどどん吸収しちゃうよ~!って感じ。

遠い昔のことですが、当時のワクワク感をほんの少し思い出し、娘を頼もしく感じました。「小学生のお母さん」スタートです!



(松岡良吉子/交野市)

お掃除ロボットに変身

昨夜10時頃。保育園でたっぷり昼寝をしている4歳の長女は、まだ眠くない模様。最近帰りが遅いパパとも久々に会えてうれしそう。ほめてもらいたいのか、まとわりついて何かとアピール。



次女はすでに就寝中。私もたまには長女につきあってみようと思いました。このところ、自己主張の強さに困惑して急ぎ立てることも多かったです。

私が何気なくテレビをモップがけしていたところ、長女が「やりたい!」と言い出しました。「もう寝る時間だし、明日にしようよー!」。でも「やりたい!」と言うので、渋々モップを渡し、何も言わずに様子を見ることにしました。



すると食卓、椅子の脚、ソファ、壁…拭くわ拭くわ、まるで掃除ロボット。本気だったのね。素敵。これからはたまに余裕があるときは、様子を見てみようと思いました。(松永友子/市川市)

にぎやかな春休み

春休み真ただ中。なんで毎日イライラするのだろう。朝起きて数時間も経っていないのに、もうけんかをしている子どもたち。



学年は1つ違いだが、ほぼ同級生みたいな年子の長女と長男。小さい頃は真似っこしたり、べたべた寄り添っては面白く過ごしたりしていたけれど、今では肌が触れただけでお互い文句ばかり。

8歳の長男に対し、3歳の次女も対等にけんか。なので私の目覚まし時計は、次女の泣き声。

「春休みはもううんざり。さっさとごはんの支度をしてママが出て行くー!」と、そんな毎日。

でも仲良く遊んでいるときもあって、朝からゲラゲラという笑い声が部屋中に響きわたります。今日も何をやっているかと思ったら、これから出かけるというのに、お互いの顔にお絵描き。



ぶんぶん怒ることも多いけれど、笑いもいっぱい。腹の底から笑えるって幸せだね。(石田尚美/川崎市)

親子新聞部

お弁当つくれたよ

大谷聡穂&かな穂/相模原市

家族に習って調理 学校で「いただきます」

福岡市立花畑中学校で、自分でお弁当をつくって登校する日が年数回のペースであり、この日は部活の朝連を中止し登校時間も通常より10分遅い。料理を通じて、家庭の会話も増えたという意見も多く寄せられている。【読売新聞 4/15】

え〜? え〜? 10分遅らせるって何〜? 年、数回って、なんで〜?



自分でつくったほうが、好きなもの入れられていいってこと。やっぱり、毎日つくらないとわかんないと思うよ〜

そうかあ…。自分でお弁当をつくるって言い出したのは、やっぱり、それだったのねえ〜

そうすればつくりやすくなる人もいるからじゃない?



贅沢なお花見

「今年最後のお花見日だよ」「寺尾の千本桜に行く?」「ダメだよ、しゅうへの熱下がったばかりだから、一番近い善光寺にしよう」なんて話しながら、窓の外をふと見れば、庭のりんごの木にかわいい花が咲いていました。「うちでお花見しようか」。



だんなさんにコーヒーを入れ、デッキに4人で腰かけて、他愛もない話をしながら、いつか年老いて「帰りたい時間」があるとすれば、まさに「今」だな、と思いました。(小澤美和/関市)

大人が楽しむ絵本

お母さん大学「大人の絵本クラブ」推薦

『ママがおこるとかなしいの』

- 作/せがわ ふみこ
○絵/モチツキマリ
○発行/金の星社
○価格/1365円(税込)



絵本はいつも直感で選んでいます。そのときの気持ちそのまま絵本にあらわれる気がします。

3歳になり、自己主張の激しくなってきた娘に、どう接しているのか迷っていたときに、ふと目に留まった一冊。

友だちとけんかしたメグちゃん。お母さんもお兄ちゃんもメグちゃんの気持ちとは違うことを言います。でもおばあちゃんだけはメグちゃんの気持ちにぴったりのことを言ってくれて…。

ついつい怒っては反省しての毎日。子どもの奥の奥の気持ち&言葉かけのポイント、大事なことが書かれています。

子どもの気持ちに寄り添いたい、けれどなかなかどうしているかわからないと、悩んでいるお母さんにぜひ読んでほしい絵本です。(池田彩/久留米市)

お母さん大学に入学するとお母さんの心のスイッチがONになる

学び方関わり方は自分次第! 日本中、世界中から参加できる

毎月1回宿題を提出する



www.okaasan.net/



「お母さん業界新聞」(テキスト)を読む

お母さん記者(MJ記者)としてウェブや新聞で発信する



講演会や勉強会、交流会に参加する

お母さんの心スイッチON

SNS「夢ひろば」で仲間とワイワイ

「お母さん業界新聞地域版」をつくる

プロジェクトリーダーとして企画や運営を担当する

- 発行: お母さん大学/毎月1日
●部数: 全国10万部
●料金: 定期購読年間3000円(送料込)